

令和8年2月26日
環境政策部
環境政策課

世田谷版気候若者会議の結果について

1 主旨

「2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロとする」目標の達成に向け、2050年に社会の中心的存在となる若者世代を対象に、若者世代の環境に関する意識や課題の把握と、気候変動問題を「自分ごと」として捉え、行政や社会に向けた提言づくりを行うことを目的とした「世田谷版気候若者会議」を11月から1月に実施したため、開催結果の報告を行う。

なお、この会議においてまとめる政策提言については、現在、参加者と調整中であり、3月末を目途に提言書が完成する予定である。提言書は完成次第、公表する。

2 実施状況（詳細は、別紙1「世田谷版気候若者会議実施報告書（速報）」のとおり）

開催日時	テーマ・内容	基調講演	参加者
第1回 11月16日（日）	「マイアクションを考える」 ・自分自身や周辺を巻き込んですぐに実施できるマイアクションについて、身近な生活を振り返りながら議論を行った。	「気候変動問題を知る—わたしたちには何ができるか」 講師) 東京大学 未来ビジョン研究センター 江守正多 教授	28人
第2回 12月7日（日）	「「わたしたち」が気候変動を止めるためにはどうしたらいいか考える」 ・各グループで一つずつ、マイアクションを実施するために必要な支援策アイデアをまとめ、相互に発表を行った。	「環境問題への取り組み方」 講師) 株式会社ピリカ 朝緑高太 氏	21人
第3回 1月25日（日）	「わたしたちの未来のための気候変動対策を考える」 ・提言のまとめに向け、前回までの「自分たちの周辺」からより広い範囲に視野を広げ、施策のアイデアについて、グループで議論した。	「個人・行動と地域・社会の転換」 講師) 国立研究開発法人 国立環境研究所 松橋啓介 室長	15人

3 若者世代の課題認識

会議に先立ち実施したアンケート調査では、「環境について関心を持っていること、気になっていること」は、たばこマナーやごみのポイ捨て等の「環境美化」への関心が最も高く、「地球温暖化について関心を持っていること、気になっていること」は、「四季を感じられなくなること」「暑さによる健康影響」「農作物の生育など食への影響」を挙げる声が多かった。

また、「環境に関する行動や取り組みについて、実践していること」は、「こまめな照明の消灯」や、「ごみのポイ捨ての防止」「資源の分別」等、生活の中で自ら実践できる身近な取り組みが多く、「再生可能エネルギーの利用」や「環境活動への参加」など、負担を伴う取り組みの実践は低い。

一方、「地球温暖化対策のために、長期的な視点で実施すべきこと」では、「再生可能エネルギーを広めるために画期的な技術開発を行う」など温暖化の緩和を図る政策推進への期待、関心が高く、次いで「電気代の値下げ等、暑さ対策のために経済的な支援を行う」と気候変動への適

応への支援を求める声が多かった。

会議においてこの課題認識をさらに掘り下げたところ、マイアクションの議論では、「マイボトルの使用」や「公共交通機関の利用」といった自らの心がけで実践できる取組みを挙げる声がある一方で、一人では難しい取組みを行政や企業の支援のもと多くの主体を巻き込んで取組みを進めることができないかなど、次のステップへの意欲とともに協働や支援の不足を課題として挙げる意見も多かった。

また、食品ロスの抑制や、物を大事に使うことへの関心、サーキュラーエコノミーの更なる推進に関する課題意識が非常に高く、環境教育の充実やゼロエミッション住宅普及促進等と合わせ、社会経済システムをより変革する必要があるという立場の意見も多く見られた。

4 提言内容

(1) マイアクションのために必要な支援の提言

自分たちがマイアクションを実施していくために必要な支援として、以下のような提言があった。

支援策アイデア① Welcome Place

- ・ 駅から立ち寄りやすく、誰もが参加しやすい場所での環境に関する展示

支援策アイデア② 水と氷で地球を冷やそう

- ・ 給水スポットのようなものを区の施設に導入する（アプリで回数を決めるなどして、特定の人が沢山利用しないようにする）

支援策アイデア③ 電子決済と環境負荷を組み合わせたアプリ

- ・ 消費した金額と商品の環境負荷を可視化させ、評価に応じてポイント還元

支援策アイデア④ (ふるさと)環境納税

- ・ 環境問題に関する行動をしている団体（地域を問わず）へ行った投資/寄付の額に応じて世田谷区へ支払う税金が控除される。

支援策アイデア⑤ 環境活動支援のためのまとめサイトづくり

- ・ 環境団体、企業(イメージアップにも)、活動等の情報を一括で見られるポータルサイト

支援策アイデア⑥ 自分にリターン、企業・地区別環境保全大会

- ・ 期間を決めて、地区、企業ごとに応募できるようにする仕組み

支援策アイデア⑦ コラボで環境意識を高めよう

- ・ 環境とキャラクターのコラボ広告（バスや電車など）で環境問題への認知率 UP、バス乗車回数の特典（地域で使える商品券やキャラクターグッズ）、環境活動のポイント制

(2) 気候変動対策への提言

気候変動対策として、区だけでなく、都・国や企業への要望としては、以下のような提言があった。

施策アイデア① サーキュラーエコノミー

- ・ 修理して繰り返し長く使える製品を製造する企業を優遇する（税金など）、修理に関する技術者を育てる

施策アイデア② 増やすと減らすを住宅で実現する

- ・ 太陽光パネル設置、断熱性能を上げるための補助

施策アイデア③ 世田谷区エコアンバサダーU15

- ・ 学校が企業と連携し、環境問題に関するプロジェクト、イベントを開催する

施策のアイデア④ **エコPay**

- ・せたPayに連動できる仕組みで、イベント参加、サステナブルグッズの購入、ストローを断る、エコバッグの使用でポイントが貯まる

施策のアイデア⑤ **食・教育・ゼロエミッション住宅**

- ・食と教育を中心として、「地産野菜の利用促進」「植樹体験」「屋上の活用」「企業連携」などを行い、地域の環境意識の向上を図る

5 今後の区の対応

区としては、提言内容を以下のとおり整理し、検討していく。

(1) 区環境施策への新たな施策展開を目指すもの

住宅の環境性能の向上の一層の推進を図るべきという提言は、エコ住宅補助金をはじめとしたUchikara Projectでの住宅の環境性能向上支援策を拡充発展させる、マイボトルを推進するために区施設に給水スポットを設置すべきという提言は、「世田谷区役所廃プラスチック削減方針」に基づく区役所への給水機の設置を契機として、さらに公共施設への拡大や、事業者を巻き込んで発展させていくことを検討する等、区環境施策の新たな施策の展開を目指す。

(2) 「setagaya green base」で検討するもの

若者自身が行政や企業と協働して取り組む環境行動や、今後さらに政策化を議論すべき提言は、環境に興味のある若者同士がつながり、若者が事業者やプロボノ等、異業種と交流しながら環境プロジェクトを創出していくことを目的として産業創造プラットフォーム「SETAGAYA PORT」の中で構築した「setagaya green base」において、若者の意見を聞きながら検討していく。

(3) 情報発信に関わるもの

環境に関する情報発信への提言は、Uchikara Projectの特設サイトでの若い世代の行動変容につながるコンテンツの充実や、気候変動適応情報を総合的に整理し、発信するために構築中の「(仮称)気候変動適応情報サイト」の中で若い世代の関心の高い情報を発信していく。

(4) 国・都へ要望していくもの

循環型社会構築推進に向け、高いサステナビリティを実現する製品を扱う企業へのインセンティブや、再エネ技術の更なる発展に向けた政策の推進等、国全体で取り組むべき提言は、特別区長会独自要望等の機会を捉えて、国・都へ要望していく。

6 今後のスケジュール

- 令和8年3月 報告書、提言書の公表
4月～ 区施策への反映を検討

別紙 I

世田谷版気候若者会議 実施報告書

(速報)

令和8年2月

世田谷区

はじめに

〈世田谷版気候若者会議の開催にあたって〉

世田谷区では、「2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロ」にすることを目標に、様々な環境施策を推進しているところです。

この目標の達成に向け、2050年に社会の中心的存在となる若者世代をターゲットにして環境に関する意識や課題を把握するとともに、若い世代が気候変動問題を「自分ごと」として捉え、最終的には行政や社会に向けた提言づくりを行うことを目的として、「世田谷版気候若者会議」を開催しました。

〈気候市民会議とは〉

気候市民会議とは、無作為に選ばれた市民が複数回の会議に参加し、専門家の話を聞きながら市民同士での話し合いを重ね、気候変動に関する対策や取組を検討するものです。

無作為に参加者を選ぶことから、「地域の縮図」を作ったうえで議論を重ねることが可能であり、多様な市民の意見を反映した取組を検討できると考えられています。

目次

I	実施概要.....	1
1.	実施体制.....	1
2.	実施状況.....	1
3.	参加者の選出	2
II	各回の会議の概要と成果	4
1.	第1回会議	4
2.	第2回会議	11
3.	第3回会議	30

I 実施概要

1. 実施体制

主催：世田谷区 環境政策課

運営事務局・ファシリテーター：株式会社ナレッジリーン

2. 実施状況

世田谷版気候市民会議は、全3回開催しました。各回のテーマを以下に示します。

回	日程	プログラム要旨	講師
第1回	令和7年 11月16日	マイアクションを考える	東京大学 未来ビジョン研究センター 教授 江守 正多 氏
第2回	令和7年 12月7日	「わたしたち」が気候変動を止めるためにはどうしたらいいか考える	株式会社ピリカ 朝緑 高太 氏
第3回	令和8年 1月25日	わたしたちの未来のための気候変動対策を考える	国立研究開発法人 国立環境研究所 室長 松橋啓介 氏

会場：世田谷区立教育総合センター 研修室(たいよう)

3. 参加者の選出

(1) 参加者募集

参加者募集は、以下の3点の方法により行いました。なお、会議 1 回当たり、クオカード 3,000 円の謝礼を提示しました。

募集方法	時期
無作為抽出による環境アンケートによる募集 (15歳~29歳の3,000人の方を無作為に抽出)	令和7年9月
区が独自で依頼したアンケートを経由しての募集	令和7年9月~10月
区の「ツクリテ」(地域活動募集のプラットフォーム)経由の募集	令和7年10月

【参考:世田谷版気候若者会議の案内】

世田谷版気候若者会議を開催します！

「世田谷版気候若者会議」は、参加した皆さんが、環境について考え、自由に話し合いながら、それぞれが自分ごととして、環境によい行動や、環境問題に対してどのようなことをしていったらよいかを考えることを目的としています。

全3回のご参加をお願いします。

▶開催日時・場所は？

	日にち	時間(予定)	場所
第1回	令和7年11月16日(日)	午後1時~ 4時30分	世田谷区立教育総合センター 研修室(たいよう) (世田谷区若林5-38-1) 東急世田谷線若林駅徒歩9分 小田急線梅ヶ丘駅徒歩12分
第2回	令和7年12月7日(日)		
第3回	令和8年1月25日(日)		

▶どんな人が来るの？

15歳から29歳の皆さん(50人程度)が参加予定です。
専門的な知識がなくても、会議の中で環境に関する理解を深めていただく講演等を予定しているのです！

※日本語で意見交換ができる方、会場への交通費を自己負担できる方が応募条件になります。
※会議参加の決定のご連絡は10月頃を予定しています。

▶何を話すの？

【テーマ例】

	テーマ例
第1回	・自分自身ができる環境への取組み「マイアクション」を考える
第2回	・若者に環境に対して積極的に取り組んでもらうために必要なこと
第3回	・若者世代の視点で考える気候変動対策

テーマは検討中のため、今後変更になる場合があります。



【参考イメージ】「若者環境デー2024」の運営委員会のディスカッション

<お問い合わせ>
 世田谷区お問い合わせセンター **せたがやコール**
 電話 (03)5432-3333 ファクシミリ (03)5432-3100
 ご利用時間 午前8時~午後9時 年中無休

(2) 参加人数

(1) で示した方法により参加者募集を行った結果、第1回～第3回に以下の参加がありました。

回	参加者数	参加者の職業内訳
第1回	28人	高校生:5人 大学生・専門学校生:13人 会社員・自営業:8人 その他・不明:2人
第2回	21人	高校生:4人 大学生・専門学校生:9人 会社員・自営業:6人 パート:1人 その他・不明:1人
第3回	15人	高校生:6人 大学生:4人 会社員・自営業:5人

(3) グループの編成

参加者の年齢、職業、居住地域を考慮し、バランスを取ったうえでグループ構成を行い、各グループに1名のファシリテーター(株)ナレッジリーン)を配置しました。

その結果、A～Fの6グループの構成となり、各グループの最大人数は5人となりました。グループごとの各回の参加人数については、次の通りです。

回	A	B	C	D	E	F	計
第1回	5人	5人	4人	5人	4人	5人	28人
第2回	3人	4人	3人	3人	3人	5人	21人
第3回	1人	4人	3人	2人	1人	4人	15人

※第3回では、参加者人数の調整を行うため、AとCグループ、DとEグループが合同で議論を行いました。

Ⅱ 各回の会議の概要と成果

Ⅰ. 第Ⅰ回会議

(Ⅰ) 会議の概要

日時	令和7年11月16日
場所	世田谷区立教育総合センター 研修室(たいよう)
参加者	28名
テーマ	マイアクションを考える

(Ⅱ) 第Ⅰ回会議のプログラム

時間	内容
13:00～ (5分)	○開会・あいさつ
13:05 (40分)	○基調講演「気候変動問題を知る—わたしたちには何ができるか」 講師: 東京大学 未来ビジョン研究センター 教授 江守 正多 氏 ※質疑応答を含む
13:45～ (20分)	○インプットトーク 世田谷区 環境アンケート結果報告 環境にやさしいライフスタイル 世田谷区の現状と取組みについて
14:05～ (20分)	○参加者自己紹介・アイスブレイク(クイズ)
14:25～ (120分)	○グループ討議「マイアクションを考える」 <u>テーマ1: 自分が行うマイアクションを考える</u> 1: 個人で付箋出し 2: グループで共有し、似た意見をまとめる 3: 模造紙にまとめ、メンバーがmyボードに貼り出し <u>テーマ2: 周囲を巻き込んで行うマイアクションを考える</u> 1: 個人で付箋出し 2: グループで共有する 3: グループごとに「タイトル」「誰と」「どこで」「最初の一步」「必要な支援」を踏まえたミニシート記入 4: with ボード貼り出し (全体共有) <u>テーマ3: 個人マイアクション宣言づくり(今後、2週間くらいのマイアクション)</u> 1: マイアクションを記入 2: (できるグループのみ) グループマイアクションを記入
16:20～ (10分)	○閉会あいさつ・アンケート記入・QUOカード配布

(3) 基調講演

「気候変動問題を知る—わたしたちには何ができるか」

講師：東京大学 未来ビジョン研究センター 教授 江守 正多 氏

【基調講演の要旨】

- ・気候変動(地球温暖化)の基本メカニズムについて
- ・温室効果ガス排出の現状と気温上昇について
- ・温暖化がもたらす影響(海面上昇、大雨・台風の巨大化 等)
- ・ティッピングポイント(不可逆的な転換点)について
- ・先進国が温室効果ガスを大量排出してきた一方、排出が少ない途上国・将来世代が最も深刻な影響を受ける「公平性の問題」について
- ・世界・日本の排出削減の現状
- ・30年後に“当たり前”になりうる変化
- ・必要な仕組みの転換について



東京大学 未来ビジョン研究センター 教授
江守 正多 氏

【質疑応答のまとめ】

Q1. オゾン層破壊と地球温暖化の関係はどのようなものか。

(回答)

- ・オゾン破壊はフロンガスが原因だったが、モントリオール議定書によりフロンは世界的に規制され、オゾン層は回復傾向。
- ・フロン類は強力な温室効果ガスでもあり、温暖化対策としても削減が進められている。
- ・現在は“代替フロン”も温室効果があるため、ノンフロン技術の導入が進んでいる。

Q2. 北極は大きく温暖化するのに南極はあまり変化していないのはなぜか。

(回答)

- ・北極は海が多いが、南極は巨大な大陸でかつ厚い氷床のため、多少融けても地表が露出せず吸収率が大きく変化しにくい。

Q3. CO₂を回収する技術はどこまで進んでいるか。

(回答)

- ・代表例として、「高圧で CO₂を地下深く注入し固定化する技術」「大気中の低濃度 CO₂を直接集めて地中に貯留する技術」などが挙げられる。
- ・技術的には可能だがコストが極めて高い。

Q4. 途上国は資金がないが、世界全体でどう支えるべきか。

(回答)

- ・歴史的に排出量が多い先進国が資金と技術を途上国へ提供することが考えられるが、必要額と先進国の拠出額にギャップがあり、今も国際交渉が続いている。

Q5. 世田谷区のような都会と地方でできるアクションの違いは何か。

(回答)

- ・地方は自家用車依存度が高いため、交通対策が重要である。
- ・地方は土地があり、再エネ発電(太陽光・風力)が導入しやすい。
- ・都会は屋根や駐車場など限られたスペースで再エネ導入がポイント。

Q6. 都会が地方の再エネ導入をお金で支援するのは有効か。

(回答)

- ・排出量を“地方で減らした分を都会にカウント”する仕組みは一般的ではないが、地方との連携・市民交流などをセットで進める事例(例:横浜市)もある。

(4) 成果

【マイアクション(個人)】

グループ	内容	頻度・期日	測定方法
A	欲しいものがある時に、似たものがないか、メルカリやセカスト、トレファクなどを見てから考える(新品の購入)	1、2ヶ月に1回(服や物を買う時)	季節ごとに買った服のうちいくつがリサイクルかカウントする
	家庭で植物や野菜を育てる	まずは1種類から始めて徐々に増やしていく。将来的にはコンポストをして肥料にしたい。	毎日世話をする。枯れさせない。
	マイボトルを持参する	毎日(大学、バイトの日)	写真を撮る
	電車やバスをあまり使わず、自転車で移動する	毎日(大学、バイトの日)	親からもらう交通費を計算して測定
	古着の購入	服を買い替える時/新しい服を購入したい時	購入履歴/自身のクローゼットの中身を写真で管理
B	安いものを大量に買すぎない	ずっと	レシートをためて振り返る
	マイボトルを持ち歩く	出かける度に	ペットボトルを買わない
	部屋で観葉植物を育て、緑を増やす	2025年中に!	今の部屋と比べ、緑が増えたかどうか
	電気をつけっぱなしで寝ることをなくす	頻度:毎日/期日:次回まで	去年の使用量との比較
	ボランティア活動による、緑化率を上げること	若者中心に参加できるものにする	区内で1つでも参加する(第2回までに)
	自分はよく料理をするので、日常で捨ててしまう食材も含めて料理する	週1で生涯続けたい	まず普通に作って捨てた部分をグラム単位で測る/その後1ヶ月くらい続けた後で、最初と比べどのくらい捨てた部分が減ったかを見る
C	10分早く寝る	今日から毎日	睡眠アプリの利用
	エアコンは真冬まで使用しない/家の中では厚着等で対応する	12月中旬まで	エアコンアプリで確認
	スマホの使用時間・夜更かししている時間を減らし(1日1h以下)それに使う電力を削減	毎日(大学、バイトの日)	スマホ内のスクリーンタイム機能を使用
	普段使用しているもの(文房具、服、飲食店、…)について製造過程などの環境への負荷を調べる(買う機会があればそれを参考に)	次の会議まで	調べた成果品をつくる!

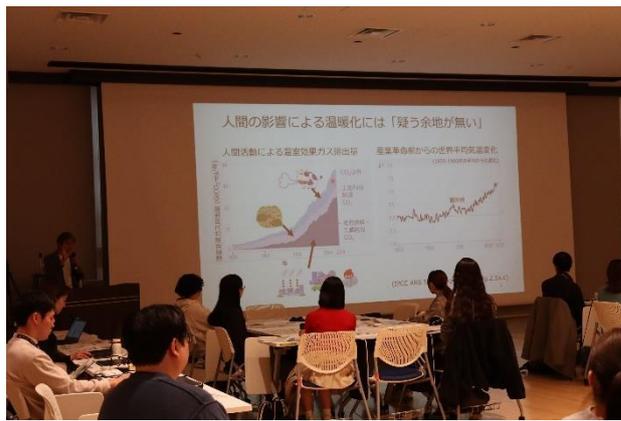
グループ	内容	頻度・期日	測定方法
D	ビーチクリーンを開催する!	月1回	ゴミの量
	賞味期限が近い食べ物を買う	半月に1回くらい	1食以上
	電車までの交通機関の利用を減らして、自転車を利用する	1ヶ月、遊びに行く時	自転車に乗って記録する
E	フリマを行う	売るものを集める／申込みを行う	来年の夏
	長く使えるものを購入する	年内	数を数える
	リサイクルショップの利用	年内	数を数える
	マイ箸、マイボトルを持ち歩く	年内	数を数える
	ペーパーレス化	FAX・郵送を使う企業	半年～1年後
	必要なものだけ購入する	月に数回(本当に必要か考える)	買って実際に使ったか／繰り返し使っているか(2年以上)
	マイボトル	外出する時	
	ムダなものを買わない	毎日	
	使い切る	毎月	
	使わなくなったモノのリサイクル	月に1回	利用した回数
	学校の使わなくなった教材のリサイクル	学校の知り合いや同級生、先輩に必要だったら、自分の使わなくなった教材を使ってもらう	(在学中 ※グループ版の用紙を使用したため)
	フードロス削減のために、賞味期限が近い商品を購入	週に1回程度(特にお昼、夜ご飯を購入する時)	どのくらいの頻度で行えたかを記録する
F	環境イベントへ参加する!(リサイクル+消費行動)	毎月する(月1～2回)／継続して行う(1～2年)／取組を意識する	手帳(メモやノート)などにチェックする!
	まずは自分の身の周りのできるSDGs行動を! -マイボトル、エコバッグ、世田谷区&都の環境問題の状況を知る -生活の無駄部分を見つめ直し、余白を作る	明日から実施／特に出社する平日は意識して行動してみる	家族などと共有し、一緒に取り組んでみる→自分がやっていることを共有、可視化する
	(特に夏)エアコンに頼り過ぎず、自分で自分の身を守るアクションをする -冷却スプレー、冷感布団、パジャマ、早寝早起きなど	来年の夏から開始してみる	家族などと共有し、一緒に取り組んでみる→自分がやっていることを共有、可視化する
	環境に配慮した商品を買う	値段を考慮しながら、無理のない頻度で／特に服を買う時にはしっかり吟味したい	その商品の環境ラベルをチェックする／企業情報をウェブサイト調べる

グループ	内容	頻度・期日	測定方法
F(続き)	地域のリサイクルスポットの場所・内容(どのようなものを提供できるか)を確認する／可能であれば持ち込んでみる	月1回	
	世田谷区の再生可能エネルギー生産率(他自治体での太陽光エネルギー?からの購入先)を調べる	1度	
	マイボトルをなるべく活用する →ペットボトルを利用する際にもリサイクルされるように	毎日	どのくらいペットボトルを使用したか
	イベントに参加してみる／正しい情報に意識して触れる	月に1回	どのくらいイベントに参加できたか

【周囲を巻き込んで行うマイアクション(Eグループのみ)】

グループ	内容	協働相手・最初の一步	期日
E	空調	学校	
	修学旅行、課外学習への参加	学校	
	リサイクルショップを利用する→リサイクル場所が増えてほしい	行政に伝える(大学、企業なども含む)／SNSで活動を共有する	数年以内に
	環境について考える機会を増やす→SNSを利用して		
	空調以外で温度調整(服、冷却用タオル)		
食品のごみを減らす(りんごの皮を使って料理)			

【第1回世田谷版気候若者会議の様子】



2. 第2回会議

(1) 会議の概要

日時	令和7年12月7日
場所	世田谷区立教育総合センター 研修室(たいよう)
参加者	21名
テーマ	「わたしたち」が気候変動を止めるためにはどうしたらいいか考える

(2) 第2回会議のプログラム

時間	内容
13:00～ (5分)	○開会・あいさつ・ガイダンス
13:05～ (30分)	○基調講演「環境問題への取り組み方」 講師:株式会社ピリカ 朝緑 高太 氏 ※質疑応答を含む
13:35～ (10分)	○インプット・トーク ・環境アンケート(モニター)の結果報告 ・第1回世田谷版気候若者会議の振り返り
13:45～ (35分)	○グループ討議「わたしたち」が気候変動を止めるためにはどうしたらいいか考える」 <u>ステップ1:マイアクションから「気候アクションの担い手」となる要素を考える</u> 1:個人でマイアクションを振り返る 2:各自のマイアクション発表とインタビュー形式でディスカッション 3:付箋を「マイアクションの」周りに貼るかたちで模造紙にまとめ、「気候アクションの担い手」となる要素を考える
14:20～	休憩
14:25～ (40分)	<u>ステップ2:自分たちが「気候アクションの担い手」になるために必要なことを考える</u> 1:5年後くらいの自分が「環境のことを自分ごとにして動いている人」だったとしたら、どんなふうになりたいか、どのような役割を担いたいかをキーワードで付箋に書き出す 2:1で書いた付箋の内容を共有する 3:「なりたい姿」「必要な力」を考え、付箋に書き出す 4:「必要なこと」を考え、付箋に書き出す 5:模造紙の内容をまとめる／グルーピング化する
15:05～	休憩

15:10～ (50分)	<u>ステップ3: 支援策のアイデア出し</u> 1: ステップ2の模造紙を見ながら、「こんな支援策があったらいいな」というアイデアを、付箋に書き出す 2: 付箋を共有し、模造紙にまとめる／グルーピング化する 3: 2の中から、「これはぜひ提案したい」というものを1～2個選ぶ 4: アイデアシートの『交差性チェック』の表で、各観点について○／△／×をつける 5: 全体で共有する
16:00～ (25分)	○全体共有
16:25～ (5分)	○閉会・アンケート記入

(3) 基調講演

「環境問題への取り組み方」

講師: 株式会社ピリカ 朝緑 高太 氏

【基調講演の内容】

- ・株式会社ピリカが取り組む「ゴミの自然界流出問題」について
- ・観察・俯瞰の重要性について
 - (観察)
 - 研究でも活動でも「自分が得た一次データ」に価値がある
 - AIで調べられる時代でも、自分で見て集めたデータは誰にも否定されない
 - (俯瞰)
 - 海外では日本のように気軽にゴミ拾いができる環境ではない例も多い
- ・ピリカの具体的な取り組みについて
(ゴミ拾いアプリ、調査事業、企業との協働 等)



株式会社ピリカ 朝緑 高太 氏

【質疑応答のまとめ】

- ・Q1 文系でも環境分野で活躍できるのか。キャリアの入口が狭く感じる。
(回答)
- ・文系出身で環境分野の仕事に就いている人も多い。
- ・法律・国際業務など文系の強みを必要とする企業も多く、文系だから不利ということはない。
- ・Q2 ごみ拾いのマップに投稿する人は個人か、団体か。大通りに集中している理由はあるか。
(回答)
- ・個人の SNS 投稿の方が多いが、ボランティア団体・企業・自治体など、多様な主体が活動している。
- ・個人活動は見えにくいいため、MAPにより可視化している。
- ・スライドは一部地域であるが、実際には広く分布している。

・Q3 ごみが少ないエリアは治安が良いと考えられるか。防犯領域での活用可能性はあるか。

(回答)

・海外ではごみと治安に関する相関関係が報告されている。

・投稿がない場所は活動者が通っていないだけの可能性もあるが、防犯での活用の可能性は十分にある。

・Q4 環境分野に関心はあるが、環境団体に入るのはハードルが高く感じる。朝緑氏はどのように関心ごと仕事をつなげてきたのか。

(回答)

・私自身も、寄り道をしながら環境分野の仕事に就くこととなった。

・行動している人は相手にも伝わるため、深く心配せず、チャレンジすることが必要ではないか。

(4) 成果

ステップ2:自分たちが「気候アクションの担い手」になるために必要なことを考える

〈なりたい姿・必要な力〉

A グループ(付箋)
行動するメリットを知ってもらう
何気ない行動が気候変動の対策につながっていることを周囲も気付けるようにしたい
環境を考えた行動は実はハードルが低いことを伝えられるようにしたい
子どもたちに分かりやすく伝える力
自分の言動がどのように環境に影響するのか、正しく調べたり、発信できるようになりたい
SNS で発信
気を引くデザイン
正しく、分かりやすく伝える能力
食べ物の大切さを伝える力
楽しいとか面倒くさいじゃなくてポジティブな気持ちをもってもらう
本当に必要なものだけしか買わない人になりたい
自己管理
本当に必要なものを見極める力
日常生活で自然環境に良い選択ができる人になりたい
環境に良いものを購入
環境に良いものとは何なのか知る必要がある
環境のイベントに参加するのではなく、企画する側に行く
イベント等の企画力
おもしろそうと思わせる企画を作る発想力
開催するメリットをアピールする力
農家さんとの交渉力
まず自分から始める力
保育園で子どもと畑を作り、食べ物の大切さや大変さを教えられる保育士になりたい
野菜を育てるスキル
周りの人を巻き込んで環境問題に取り組む
問題にぶつかった時、どう対応できるかという判断力
どんな問題があるか考える力

B グループ(付箋)
ミニマリストになる!
環境博士になる
環境のイベントを広める人
コンポストを利用して生ごみゼロ、プラ系のごみのみ処理するように
断熱を意識した家をつくりたい
レジ袋の値段を高めにする自治体を増やしていく
環境勉強会の開催、フロー作成
ポスターとかイベントについての情報を広めてほしい
環境住宅の増加、建て替え推進
レジ袋は1袋 50 円か 100 円にする
新しい物を売るときに、お一人様1つまでなどのルールを作る
各家庭にルンバを支給し、ルンバで部屋を掃除できるようにする
給水スポットを増やしてほしい

C グループ(付箋)
共有スペースにおける電力消費量、電気代を可視化する
消費量のシミュレーションを普及させる
購入した商品とその環境負荷が自動的に可視化されるようなシステムをつくる・広める←電子決済が更に導入されているはず。家計と結びつけられれば
コンポストをしている
災害時にも役立つような自然発電を取り入れて生活している
自給自足的な生活が当たり前になっており、自分の体と家1つで何でも完結する
長く使え、長く愛せる物を買う習慣が定着し、買い物の選択の質が上がっている。思い切った選択を自信を持って行えるようになっている

D グループ(付箋)
環境事業 パタゴニアのような環境事業における成功
地球を大切に感じられるような空間づくり
環境問題解決で生活していく、稼ぐ、ビジネスとして成立してほしい
環境団体の参加ハードルが下がっていてほしい コミュニティが形成
特に夏、太陽の反射光がまぶしいから、住宅街とかの道路やタイルなどを考えてほしい
正しい知識を持つ
興味ある異常気象と環境教育についての知識をもっと活用
教育事業
環境に興味がある人以外も参加しやすいイベント
所属団体の CSR、ESG
投票する 選挙政策への注目
投票率の上昇 オンライン投票の仕組みとか？
インフラを通して発電する
エンカル消費を日常的にできてる
移動手段を考える
大量に物を買すぎない

E グループ(付箋)
環境問題、アクションについて正しい情報を収集する
5年後、自炊を行う際に食材をムダにしない料理方法を提案・実行→SNS や家族に教えたり
食べ物をムダにしない!(使わない物は冷凍するとか…)
5年後、自分の食べ物の消費量を理解して、食品を購入
5年後、流行りの服を買う際、長く着れるかどうか先を見越した購入ができる

Fグループ(付箋)
環境教育 ボランティアなどでワークショップや講義の運営を行いたい 子どもに限らず、環境に詳しく伝えられる人材になりたい
NPO 団体 清掃・おまつりなどの参加→人脈の構築→地域の子どもたちなどに話す機会など! おまつりのごみの分別大事!子どもに楽しく教える良い機会になるのでは
教科横断的な学習で、環境を絡めた教材を活用する
絵本を描く
”家計”と”環境”に優しい生活を心がける
環境に優しいエアコンを安く売りたい
バス利用を身近にするために働く(路線を増やす、運賃を下げる、子育て世帯へのチケット配布)
行政の人になって交通渋滞をなくすために働く(道幅を拡げる、一方通行を調節する)
子どもと地域の環境イベント(学び、ごみ関係、人との交流)に参加する
自然と環境保全をからめた活動
地域に寄り添った環境保護活動
企業の環境対策強化促進 資格など取っておきたい(防災、環境保護)

〈必要なこと〉

A グループ(付箋)
正しい知識の取得
情報収集をする
人に上手に伝える能力
多くの人の目に止まるようなデザインやマーケティングの研究
学校で環境について話をする
伝える場を作る
正しい知識や情報を習得するための講義
分かりやすい環境に関するサイトの作成
環境に優しい事業や製品製作の推進
ファクトチェックの推進
気軽に参加しやすい場所の提供(駅から近いなど)

B グループ(付箋)
交友関係を拡げる
自分の環境についての知識を増やす
プレゼンをうまくできる人になる
環境についての勉強、イベントへの参加
建築について勉強する 材料や施工方法など
常にマイバッグやマイボトルを持ち歩く
ポスターを増やしたり、紹介する場を設ける
自分の趣味とは違う趣味の友だちを作る
ミニマリストの友だちやインフルエンサーのまねをする
役所の仲間たちと環境に対してどれほど意識しているか話し合う。その中で改善すべき点は共有し合う。
イベントに参加した景品などに費用を使う
毎週新しい物を売らないでほしい
イベント参加時に公休になる制度
補助金の新設
生分解性の袋のみにする
レジ袋の値段は、国・その自治体との合意をうまく得た上で上げるようにする
友だちやネットに流されず、自分に必要な物だけを買うようにする

C グループ(付箋)
「見える化」システムの利用者のニーズを把握
賛同・協力する仲間づくり
アプリの周知 家族や友人にすすめられる 大学や社内でアプリを利用させる
知識と問題意識を持ち続ける、アップデートしていく
公私共に生活の中での移動を減らす
消費の可視化 学内や社内に電気代を周知させるポスターやメール
環境への意識向上、金銭的・技術的支援
供給の可視化 自転車発電など健康と組み合わせて、自分の供給量への貢献を可視化させる 大学や区の施設に設置し、いつでも利用できるようにする
大企業が私たちの意識(認識)よりも先にどんどんエコなサービスを提供していく
デジタルデバイドをなくす
あらゆる側面での IT 化促進
格差解消
国、自治体によるシステムの統一化
見える化システムの広報
製品情報の提供(企業)
経済的⇌時間的余裕の確保
地域共同体のつながりを強める
スペース・環境の広さの確保
利潤ばかりを追求しない

D グループ(付箋)
自分たちの活動が可視化できるように
学んだことを発信する(SNS、地域イベントなどで)
環境イベントを調べる
情報収集
情報の収集、発信 最新かつ正確な
企業・専門家とのつながり
企業や地域は環境活動についてもっとアピールする
環境教育
一般民も環境への影響を考えられるように教育に力を入れる
団体・企業・活動などの一覧表
学生のうちから参加できる場の提供
世田谷区の環境アンバサダー的な資格?バッジ?
環境に優しい製品の拡充 当たり前にする
事業への行政による継続的な支援(最後まで)
世田谷区から認証マークをつくる(環境に優しい取り組みをしている企業が分かりやすくなるように)
発表する場
音が出るピアノの階段のように振動で発電して一種の観光名所をつくる

E グループ(付箋)
ごみ拾いや環境についての講義が聴けるイベント、ボランティアの参加→環境に意識が向く、正しい情報を得やすい
情報リテラシーを高める
友だちと情報を共有する(良いモノ、コトがあった時に「これ良くない?」と送り合う感覚)
学校や企業で消費期限が近い食品をレストランやお店から取り寄せて売店で売ってほしい
ラベルレスのボトルのように、企業・行政の取組を環境について知るきっかけにする
食べ物が毎日どのくらい廃棄されているか、数値が SNS、インスタグラムでチェックできるようにしてほしい
入社する際に私たちの会社は環境のためにどのようなことをしているのか説明するシステムを導入する
消費期限が短い食品にシールを貼って、それを集めると景品がもらえる

Fグループ(付箋)
環境に関する知識を深める
英語ができれば外国の人とも話せる
文章力 表現力 コミュカ
教材の開発 授業実践事例の共有・発信
絵本の作り方、販売方法を調べる
防災・環境系の資格
人脈・信頼
講演会の実施
学校:課外活動のサポート、参加呼びかけ、イベントの紹介(ポスター等)
イベント一覧が掲示板・SNSに公開される
1日乗車券を発信、イベントを行う
環境負荷の少ない製品は税金下げる
交通渋滞を把握して、対策・実行!
バス会社と連携して、バスの利用者を増やす取組
企業や行政によるポイントバック等キャンペーン実施
イベントの主催

ステップ3: 支援策のアイデア出し

A グループ

1. 支援策の基本情報

支援策アイデア名	Welcome Place
分野 (該当するものに○)	<input type="checkbox"/> モノの選び方 <input type="checkbox"/> 食生活 <input type="checkbox"/> 住居 <input type="checkbox"/> 移動 <input checked="" type="checkbox"/> 学び・イベント <input type="checkbox"/> その他()
主な主体(該当するものに○)	<input checked="" type="checkbox"/> 世田谷区 <input type="checkbox"/> 学校・教育機関 <input type="checkbox"/> 企業・お店 <input checked="" type="checkbox"/> 地域団体 <input type="checkbox"/> 若者自身→個人
この支援策で特に応援したい若者像	例: アルバイトで忙しい高校生／一人暮らしの大学生 など自由に記入 ・環境問題について、実物を交えてより発信したい人

2. 支援策の内容

(1) どんな支援・しくみか(具体的なイメージ)	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが参加しやすい場所の提供 ・駅から立ち寄りやすい ・展示だけでなく、クイズ形式にするなど
(2) この支援で、どんな行動変容を応援したいか	<ul style="list-style-type: none"> ・環境への興味関心が薄くとも、立ち寄ったことで考えるきっかけになる。
(3) 期待される効果(環境面+それ以外のよいこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した行動の増加 ・より多くの人に伝えるための工夫 ・環境イベントの開催の増加

B グループ

1. 支援策の基本情報

支援策アイデア名	水と氷で地球を冷やそう
分野 (該当するものに○)	<input type="checkbox"/> モノの選び方 <input type="checkbox"/> 食生活 <input checked="" type="checkbox"/> 住居 <input type="checkbox"/> 移動 <input type="checkbox"/> 学び・イベント <input type="checkbox"/> その他()
主な主体(該当するものに○)	<input checked="" type="checkbox"/> 世田谷区 <input checked="" type="checkbox"/> 学校・教育機関 <input checked="" type="checkbox"/> 企業・お店 <input type="checkbox"/> 地域団体 <input type="checkbox"/> 若者自身→個人
この支援策で特に応援したい若者像	例:アルバイトで忙しい高校生/一人暮らしの大学生 など自由に記入 ・外で働いている人 ・経済的な理由で水を買えない人

2. 支援策の内容

(1)どんな支援・しくみか(具体的なイメージ)	・区の施設に導入する ・アプリで回数を決めるなどして、特定の人が沢山利用しないようにする。
(2)この支援で、どんな行動変容を応援したいか	・マイボトルを増やす ・熱中症対策として
(3)期待される効果(環境面+それ以外のよいこと)	・ゴミの減少 ・熱中症予防の啓発 ・経済的支援 ・情報の掲示 ・自動販売機の利用を減らす

3. 交差性チェック(多様な若者への届きやすさ)

観 点	○	△/×	メモ(どんな工夫が必要?)
お金の負担は大きすぎないか		×	少しずつ広める
時間の負担は大きすぎないか(部活・バイト・家の手伝い等との両立)	○		
移動しやすさ・バリアフリーはどうか	○		
日本語が得意でない人にもわかりやすいか	○		
人が多い場や対面が苦手な人にも参加の余地があるか	◎		
その他、届きにくそうな若者はいないか		△	

C グループ①

1. 支援策の基本情報

支援策アイデア名	電子決済と環境負荷を組み合わせたアプリ
分野 (該当するものに○)	<input checked="" type="checkbox"/> モノの選び方 <input type="checkbox"/> 食生活 <input type="checkbox"/> 住居 <input checked="" type="checkbox"/> 移動 <input type="checkbox"/> 学び・イベント <input type="checkbox"/> その他()
主な主体(該当するものに○)	<input checked="" type="checkbox"/> 世田谷区 <input checked="" type="checkbox"/> 学校・教育機関 <input checked="" type="checkbox"/> 企業・お店 <input checked="" type="checkbox"/> 地域団体 <input checked="" type="checkbox"/> 若者自身→個人
この支援策で特に応援したい若者像	例:アルバイトで忙しい高校生/一人暮らしの大学生 など自由に記入 ・節約をしたい全ての人

2. 支援策の内容

(1)どんな支援・しくみか (具体的なイメージ)	・消費した金額と商品の環境負荷を可視化させる ・評価に応じてポイント還元
(2)この支援で、どんな行動変容を応援したいか	・アンケート調査で上位を占める経済意識と環境を組み合わせ、意識改革をする
(3)期待される効果 (環境面+それ以外のよいこと)	・節約と環境への当事者意識が上がる

3. 交差性チェック(多様な若者への届きやすさ)

観 点	○	△/×	メモ(どんな工夫が必要?)
お金の負担は大きすぎないか	○		
時間の負担は大きすぎないか (部活・バイト・家の手伝い等との両立)	○		
移動しやすさ・バリアフリーはどうか	○		
日本語が得意でない人にもわかりやすいか	○		
人が多い場や対面が苦手な人にも参加の余地があるか	○		
その他、届きにくそうな若者はいないか	○		

C グループ②

1. 支援策の基本情報

支援策アイデア名	(ふるさと)環境納税
分野 (該当するものに○)	<input type="checkbox"/> モノの選び方 <input type="checkbox"/> 食生活 <input type="checkbox"/> 住居 <input type="checkbox"/> 移動 <input type="checkbox"/> 学び・イベント <input checked="" type="checkbox"/> その他(経済)
主な主体(該当するものに○)	<input checked="" type="checkbox"/> 世田谷区 <input type="checkbox"/> 学校・教育機関 <input type="checkbox"/> 企業・お店 <input type="checkbox"/> 地域団体 <input checked="" type="checkbox"/> 若者自身→個人
この支援策で特に応援したい若者像	例:アルバイトで忙しい高校生/一人暮らしの大学生 など自由に記入 ・環境問題解決に実際に取り組んでいる人 ・環境への問題意識はあるが、一歩踏み出せない人

2. 支援策の内容

(1)どんな支援・しくみか (具体的なイメージ)	・環境問題に関する行動(環境への負担が見える化するシステムづくり)をしている団体(地域を問わず)へ行った投資/ 寄付の額に応じて世田谷区へ支払う税金が控除される。実質的に、世田谷区→団体へ税金が移動する。
(2)この支援で、どんな行動変容を応援したいか	・環境問題に取り組む活動にお金が回る。 ・環境への興味・関心を税制という身近で考えざるを得ないものから生み出すことが出来る。
(3)期待される効果 (環境面+それ以外のよいこと)	・税制をきっかけとして、環境問題に取り組む団体に、自発的に投資を行えるようになる人の増加。 ・税制への区民の納得感が上がる。

D グループ

1. 支援策の基本情報

支援策アイデア名	環境活動支援のためのまとめサイトづくり
分野 (該当するものに○)	<input type="checkbox"/> モノの選び方 <input type="checkbox"/> 食生活 <input type="checkbox"/> 住居 <input type="checkbox"/> 移動 <input checked="" type="checkbox"/> 学び・イベント <input checked="" type="checkbox"/> その他(情報提供)
主な主体(該当するものに○)	<input checked="" type="checkbox"/> 世田谷区 <input checked="" type="checkbox"/> 学校・教育機関 <input checked="" type="checkbox"/> 企業・お店 <input checked="" type="checkbox"/> 地域団体 <input type="checkbox"/> 若者自身→個人
この支援策で特に応援したい若者像	例:アルバイトで忙しい高校生/一人暮らしの大学生 など自由に記入 環境にちょっとでも興味がある人

2. 支援策の内容

(1)どんな支援・しくみか (具体的なイメージ)	環境団体、企業(イメージアップにも)、活動などの情報を一括で見れるポータルサイト ・活動への参加 興味→活動への壁をなくす ・情報の信頼性 気軽に参加できる情報の精査 ・種類 様々な需要にこたえる すき間にも ・コミュニティの形成 新しい出会い
(2)この支援で、どんな行動変容を応援したいか	環境への興味を後押しする(のちの担い手に)
(3)期待される効果 (環境面+それ以外のよいこと)	・“活動してみようかな”につなげ、参加人数を増やす ・コミュニティの形成 ・地域の活性化

3. 交差性チェック(多様な若者への届きやすさ)

観 点	○	△/×	メモ(どんな工夫が必要?)
お金の負担は大きすぎないか		△	・この事業の維持
時間の負担は大きすぎないか (部活・バイト・家の手伝い等との両立)	○		・種類
移動しやすさ・バリアフリーはどうか	○		・オンライン 種類が増えれば
日本語が得意でない人にもわかりやすいか		△	・多言語対応
人が多い場や対面が苦手な人にも参加の余地があるか	○		・オンライン
その他、届きにくそうな若者はいないか			・興味がない人

4. メモ・追加のアイデア

・学生による運営 ・参加者による発信 ・学生以外にも、社会人など

E グループ

1. 支援策の基本情報

支援策アイデア名	自分にリターン 企業、地区別環境保全大会 (自分にも環境にもリターン、企業、地区対抗)
分野 (該当するものに○)	<input checked="" type="checkbox"/> モノの選び方 <input checked="" type="checkbox"/> 食生活 <input checked="" type="checkbox"/> 住居 <input type="checkbox"/> 移動 <input checked="" type="checkbox"/> 学び・イベント <input type="checkbox"/> その他()
主な主体(該当するものに○)	<input checked="" type="checkbox"/> 世田谷区 <input checked="" type="checkbox"/> 学校・教育機関 <input checked="" type="checkbox"/> 企業・お店 <input checked="" type="checkbox"/> 地域団体 <input checked="" type="checkbox"/> 若者自身→個人
この支援策で特に応援したい若者像	例:アルバイトで忙しい高校生/一人暮らしの大学生 など自由に記入 環境問題にまだ関心のない学生

2. 支援策の内容

(1)どんな支援・しくみか(具体的なイメージ)	・期間を決めて、地区、企業ごとに応募できるようにする仕組み ・個人にも企業にも景品、評価につながる(削減の部門ごとに%で評価) ・スポンサーをつける、省エネ、ごみ、ランク分け
(2)この支援で、どんな行動変容を応援したいか	・今は関心が薄い分野に、メリット(例:助成金、産品)を提示することで、参加、知るきっかけを作る。 ・企業、地区などの評価(会議への参加率など)を環境問題改善につなげる
(3)期待される効果(環境面+それ以外のよいこと)	・環境問題に対して、関心を持つきっかけとなり、行動にうつしてもらう。 ・取組を外部へPRできる。 ・企業、地区の評価が上がる ・ごみの量減→処理の費用、CO2 減

3. 交差性チェック(多様な若者への届きやすさ)

観 点	○	△/×	メモ(どんな工夫が必要?)
お金の負担は大きすぎないか		△	国へ負担をお願いする(Jクレジット)。スポンサーをつける、
時間の負担は大きすぎないか(部活・バイト・家の手伝い等との両立)	○		
移動しやすさ・バリアフリーはどうか	○		
日本語が得意でない人にもわかりやすいか	○		
人が多い場や対面が苦手な人にも参加の余地があるか		△	インプット、グループワーク等、色々な形で開催
その他、届きにくそうな若者はいないか	○		

F グループ

1. 支援策の基本情報

支援策アイデア名	コラボで環境意識を高めよう
分野 (該当するものに○)	<input checked="" type="checkbox"/> モノの選び方 <input type="checkbox"/> 食生活 <input type="checkbox"/> 住居 <input type="checkbox"/> 移動 <input checked="" type="checkbox"/> 学び・イベント <input type="checkbox"/> その他()
主な主体(該当するものに○)	<input checked="" type="checkbox"/> 世田谷区 <input type="checkbox"/> 学校・教育機関 <input checked="" type="checkbox"/> 企業・お店 <input type="checkbox"/> 地域団体 <input type="checkbox"/> 若者自身→個人
この支援策で特に応援したい若者像	例:アルバイトで忙しい高校生/一人暮らしの大学生 など自由に記入 環境問題に興味のない学生

2. 支援策の内容

(1)どんな支援・しくみか(具体的なイメージ)	・環境とキャラクターのコラボ広告(バスや電車など)で環境問題への認知率UP! ・バス乗車回数で特典(地域で使える商品券やキャラクターグッズ) ・環境活動でポイント制
(2)この支援で、どんな行動変容を応援したいか	・環境イベントの参加得点をキャラクターコラボグッズにする(参加をうながす) 水筒 エコバッグ エコカイロ センズ 鉢植え 保存食・非常食 バス定期入れ PASMO ・環境に取り組み第1歩をあとおし
(3)期待される効果(環境面+それ以外のよいこと)	・環境を意識した生活が自然になる

3. 交差性チェック(多様な若者への届きやすさ)

観 点	○	△/×	メモ(どんな工夫が必要?)
お金の負担は大きすぎないか		△	イベントの回数やエリアを増やす
時間の負担は大きすぎないか (部活・バイト・家の手伝い等との両立)	○		
移動しやすさ・バリアフリーはどうか		?	
日本語が得意でない人にもわかりやすいか		△	海外での人気の作品等をコラボに含める
人が多い場や対面が苦手な人にも参加の余地があるか		×	映像を見てもらう形式?見た後にオンラインショップ入場可能
その他、届きにくそうな若者はいないか		△	

【第2回世田谷版気候若者会議の様子】



3. 第3回会議

(1) 会議の概要

日時	令和8年1月25日
場所	世田谷区立教育総合センター 研修室(たいよう)
参加者	15名
テーマ	わたしたちの未来のための気候変動対策を考える

(2) 第3回会議のプログラム

時間	内容
13:00～ (5分)	○開会・あいさつ・ガイダンス
13:05～ (25分)	○グループ討議「わたしたちの未来のための気候変動対策を考える」 ステップ1:第2回振り返り(アイデアの深掘り) ・各グループで出したアイデア(第2回「支援策」)について、次の項目をまとめる ①どうなっていると良いか?(=望ましい状態) ②今、障害となっていること:時間/費用/情報/移動等 ③障害を下げる工夫(必要条件・取組など)
13:30～ (40分)	○基調講演「個人・行動と地域・社会の転換」 講師:国立研究開発法人 国立環境研究所 室長 松橋 啓介 氏 ※質疑応答を含む
14:10～	休憩(10分)
14:20～ (60分)	ステップ2:若者世代の視点から気候変動対策を考える 1. 個人で、地球温暖化対策の上で効果が大きいと思われる取組を選び、ワークシートに書かれている項目を書く。 2. ワークシートに書いた内容を発表し合っ、グループとして取り上げる取組を2つ程度選出する。 3. 選出した取組について、グループで話し合いながら模造紙に各項目を記入していく。
15:20～	休憩(10分)
15:30～ (45分)	○全体共有・世田谷区長コメント
16:15～ (15分)	○閉会・全体写真・アンケート記入

(3) 基調講演

「個人・行動と地域・社会の転換」

国立研究開発法人 国立環境研究所 室長 松橋 啓介 氏

【基調講演の内容】

- ・個人の行動から社会システムの転換について
- ・公共交通が使いやすいまち、徒歩・自転車が安全なまちなど、制度づくりの必要性について
- ・交通とまちづくりに関する調査結果について
- ・市民参加の新しい形である「ミニパブリック（気候市民会議）」について（つくば市の事例）
- ・提案を社会に広げる方法について
→「北風と太陽」のように、無理に努力を求めのではなく、自然と行動が変わる仕組み
- ・個人の生活、地域、しくみの転換について



国立研究開発法人 国立環境研究所 室長
松橋 啓介 氏

【質疑応答のまとめ】

- ・Q1 環境負荷の軽減に関する行動のインセンティブとして金銭的な得が紹介されていたが、金銭的なメリット以外にも、何か行動を促進するようなものはあるか。
(回答)
・人から褒められる・認められることも大きな動機づけになる。
・ポイント付与など、少額でも「応援されている」という感覚が行動を後押しする。心理的な要素も重要。
- ・Q2 「罰則（損）」と「インセンティブ（得）」はどちらが効果的か。「罰則（損）」が設けられている方が、行動を変えやすいのではないか。
(回答)
・罰則のみでは社会が窮屈になるため、最も重要な部分での罰則が必要。
・基本的に守ってほしい行動は罰則なしでも「損にならない仕組み」を設け、さらに緩い誘導でもよい部分は、ポイントなど「得」が有効ではないか。
- ・Q3 世田谷区のように若者・高齢者が共に住む地域を考えるうえで、次のディスカッションでは、どのようなことに着目すべきか。
(回答)
・若者だけで政策を議論すると高齢者からの反対を受ける可能性があるため、政策を考えるうえで、高齢者の視点からのチェックを考えることが必要。

(4) 成果

A+C グループ

【提言タイトル】サーキュラーエコノミー

●何をしてほしい？（制度・仕組みの提案）

- ・（企業に）修理して繰り返し長く使える製品を製造する企業を優遇する（税金など）
- ・修理に関する技術者を育てる
- ・国家資格や企業認定マーク等を与えられるシステムを整える
- ・5～10年で壊れる設計と文化に対し、製品を5～10年契約にする等、供給側、消費側の双方に利点があるシステムを導入する

●なぜ必要？（背景・根拠）

- ・長持ちさせないと、大量消費・生産が止まらず、加速する→ごみの削減へ
- ・家電は「買い替えた方が安い」状況で、修理文化が衰退しているため

●どうやって実現する？（具体の仕組み）

- ・国家資格認定の法を整備する
- ・技術者の環境整備（企業とのマッチング、資格の認定と優遇、etc.）
- ・高いサステナビリティを実現する製品を扱う企業を優遇する（法、税金等の面でサポート）
- ・製品を5年で買い替えるのではなく、10年契約などで長く使う仕組みをつくる。

●期待される効果（気候変動対策+共便益）

- ・資源の取り合いをしない
- ・持続可能で循環型の社会
- ・修理する文化の再興

B グループ

【提言タイトル】増やすと減らすを住宅で実現する提言

●何をしてほしい？（制度・仕組みの提案）

- ・（行政に）太陽光パネル設置の補助
- ・（行政に）断熱性能を上げるための補助

●なぜ必要？（背景・根拠）

- ・空き家問題の増加
- ・断熱性を上げることによってエネルギー効率を上げ、建物を長く使えるようにする
- ・断熱性を高めることでエネルギー効率を向上させ、CO₂削減にもつなげるため。

●どうやって実現する？（具体の仕組み）

- ・太陽光パネルの設置が今まで難しかった場所を検討する（例えば、ペロブスカイト太陽電池を使えば、建物の窓や外壁などいままで設置が難しかった場所にも、太陽光発電の設置が期待できる）
- ・既存住宅の断熱改修の補助を行う

●期待される効果(気候変動対策+共便益)

- ・エネルギー効率の向上とCO₂削減
- ・断熱により、冷え性の改善など、健康状態の向上

D+E グループ

【提言タイトル】世田谷区エコアンバサダーU15

●何をしてほしい?(制度・仕組みの提案)

- ・(企業に)学校が企業と連携し、環境問題に関するプロジェクト、イベントを開催する
- ・(行政に)学生にインパクトのある環境教育の実施
- ・(行政に)「世田谷区エコアンバサダーU15」

●なぜ必要?(背景・根拠)

- ・世田谷区より、環境教育に携わる団体、企業に補助金を出してもらう
- ・従来とは違うインパクトのある環境教育を実現するため。

●どうやって実現する?(具体の仕組み)

- ・学校でインパクトのある環境教育を企業と連携してもらう
- ・第三者の専門家に小中学校へ課外学習の授業などを実施してもらい、授業の終了後も生徒が自由に参加できる環境活動プロジェクト(ないし環境ボランティア)を設けておき、質の高い環境教育を実現する。

●期待される効果(気候変動対策+共便益)

- ・環境意識の向上

【提言タイトル】エコPay

●何をしてほしい?(制度・仕組みの提案)

- ・(行政に)せた Payに連動できる仕組みにする
- ・(企業に)せた Payを使えるようにしてもらう

●なぜ必要?(背景・根拠)

- ・日常生活で環境へ配慮する行動をとれば、インパクトが大きいから。(例えば、世田谷区民 92 万人が1日1本ストローを断れば92万本削減できる)

●どうやって実現する?(具体の仕組み)

- ・イベント参加、サステナブルグッズの購入、ストロー断る・エコバッグの使用でポイントが貯まる
- ・環境団体・NPO の情報を一括で見られるポータルサイトを設立し、イベント、ボランティア募集などの情報を掲載する。
- ・環境に良い行動(ストロー断り、リユース容器利用など)を取った場合に、ポイント付与する。
- ・せたがや Payとも連携し、ポイントを相互で交換できるようにする。

●期待される効果(気候変動対策+共便益)

- ・プラスチックごみの削減

- ・環境に関するボランティアの活性化

F グループ

【提言タイトル】食・教育・ゼロエミッション住宅の提言

●何をしてほしい？(制度・仕組みの提案)

- ・(行政、企業に)ゼロエミッション建築、屋上の貸し出し、菜園(屋上)
- ・(学校・教育機関、地域団体に)利用者募集(イベント・体験)、植樹
- ・(行政に)収益の配分制度(海・山の植藻・植樹)

●なぜ必要？(背景・根拠)

- ・他地域との連携
- ・「食料(肉・野菜など)」を生産する過程でも、CO₂ が排出されるため、まずは世田谷区でとれた野菜などを食べる。そうすることで、環境にやさしい「食」について考えるきっかけとする。

●どうやって実現する？(具体の仕組み)

- ・制度設計・企業の協力募集
- ・アプリでPR、キャラクターの利用(世田谷区にゆかりのある)
- ・区民にポイント加算(せた Pay利用)
- ・空き家の屋上を活用して、貸し出し農場や野菜を作れるスペースを設ける(食・教育・空き家活用の例)。
- ・若者にも届く形で発信する。

●期待される効果(気候変動対策+共便益)

- ・地域経済の活性化
- ・CO₂削減
- ・環境行動の「見える化」
- ・地域活性化

【第3回世田谷版気候若者会議の様子】



**世田谷版気候若者会議
実施報告書（速報）**

発行日：令和8年2月

発行元：世田谷区 環境政策部 環境政策課

〒158-0094 世田谷区玉川 1-20-1 二子玉川分庁舎

TEL：03-6432-7131